

統計を活用したボランティア委員会活動

愛媛県 内子町立内子中学校 教諭 尾上 明子

1 はじめに

前任校の長浜中学校ボランティア委員会では「私たちにできるボランティア活動」を「無理なく無駄なく根気よく」を合い言葉に、地道な収集活動を中心に行っている。まず、全校生徒に「ボランティア袋」と名付けた封筒を配布し、「ベルマーク、町の商店街で発行されている教育助成金の券、書き損じの葉書、古切手、使用済みのテレホンカード」のうち、協力できるものを封筒に入れて持って来てもらう。次に、ボランティア委員会でそれらを分類・整理し、それぞれの送付先に年に1回程度送っている。これまでに、ベルマーク預金で自校で使う冷水機を購入するだけでなく、タンザニアの支援活動にも協力してきた。また、書き損じの葉書などを換金したお金は、災害被災地などへの義援金としてきた。

この地道な収集活動を支えているのは「何かの役に立てれば」というボランティア意識である。年度当初は全校生徒に収集を呼びかける委員会発表を行い、活発に行ってきた収集活動であるが、2学期には停滞しがちで、「ボランティア袋」を配布しても協力してもらえる数が減ってきた。集めようとする意識を生み出し、継続させるために、月に1回程度の「ボランティア通信」を発行し、収集物の行き先や役立ち方を伝える広報活動を行っているが、内容がマンネリ化している。そこで、委員会活動の活性化を図るとともに、全校生徒の意識を高め、より多くの協力が得られるよう、統計資料を活用した文化祭の展示や「ボランティア通信」による広報活動を実践した。

2 ねらい

全校生徒のボランティアに取り組む意識を調査し、その結果をまとめ、考察し、発表することを通して、委員会活動を活発にし、全校生徒の収集活動に協力する意欲を高める。

3 実践の流れ

(1) とらえる

専門委員会で、「ボランティア袋」による収集活動に協力してもらえない人が少ないことを問題点として、原因を推察する。

(2) あつめる

推察した原因をもとに、ボランティア委員会で行っている活動についてのアンケートを作成し、全校生徒にアンケート調査を行う。

(3) まとめる

調査結果を分類・整理し、得られたデータを集計する。

(4) よみとる

集計したデータから、「ボランティア袋」による収集活動に協力してもらえない原因や、ボランティアに対する意識の考察を行う。

(5) いかす

調査結果を項目を絞ってグラフにし、考察結果を示すとともに、考察結果をもとに全校生徒に訴えたい内容についてまとめた展示を文化祭で行う。また、同様の内容で「ボランティア通信」を発行する。

4 実践内容

(1) とらえる

毎月始めに行われている定例専門委員会で話し合い、「ボランティア袋」による収集活動に協力してもらえない原因を、下記の3段階に分けて考えた。

ア 集めている物を知らないのではないか。

イ 集めていないのではないか。

ウ 集めてはいるが、持ってきていないのではないか。

また、協力してもらえない意識的な原因が下記のような点にあると考えた。

ア 収集物がどのように役立っているかの理解が不十分なのではないか。

イ ベルマークが見過ごされているのではないか。

ウ 収集活動が、身近なボランティア活動であることが理解されていないのではないか。

エ 身近にあるボランティアに参加する意欲が低いのではないか。

(2) あつめる

専門委員会での話し合いをもとに、対象者が答えやすく、問題点が明らかになるようアンケートの設問や答え方を考えた。

工夫したことは、下記の点である。

ア 間違いやすいと思われる、収集物の中から、「委員会が集めている物」「家で集めている物」「学校に持ってきたことがある物」を記号で選び、どの段階で協力ができてないかが明らかになるようにした。

イ 意識調査の質問文を「～知っていますか？」にまとめ、対象者が考えやすくするとともに、選択項目を4つにし、知っている傾向か、知らない傾向かが明らかになるようにした。

(3) まとめる

調査結果を各学級で集計し、まず実数を表にまとめた。その表をもとに委員会で考察を行ったが、学年ごとの人数の違いや項目ごとの数字の多さに惑わされ、十分な考察ができなかった。そこで、見るべき項目が多すぎると十分な考察ができにくいことを反省し、学年ごとの比較をせず、全校生徒の傾向がよみとれるよう、3年生の委員を中心にグラフを作成した。

< 資料2 > < 資料3 >

< 資料1 アンケート用紙 生徒作成 >

アンケート☆☆☆

ボランティア委員会で、ボランティアに関する調査をしています。下の質問に答えてアンケートにご協力下さい!!

☆ 貴校中学校ボランティア委員会が集めていると思うものを下の□の中から選んで記号に書きつけて下さい。

(A B C D E F G H I J K L M N)

☆ 貴校中に持っているためにあなたのお家で集めているものを下の□の中から選んで記号に書きつけて下さい。

(A B C D E F G H I J K L M N)

☆ 家に持っていることがあるものを下の□の中から選んで記号に書きつけて下さい。

(A B C D E F G H I J K L M N)

A. 古切手 B. 古新聞 C. 古雑誌 D. 使用済レカ
E. 使用済紙コップ F. 使用済乾電池 G. 古いCD/DVD
H. かわいい鉛筆 I. フラクラー J. グリーンマーク
K. フラクラー L. ベルマーク M. エコマーク
N. フラクラー台紙についている教育館紙の裏

☆ ボランティア委員会で集めたものがどのように役に立つか知っていますか？(番号に書きつけてください)

4 — 3 — 2 — 1
よく知っている いくつかは知っています あまり知らない 全然知らない

☆ ベルマークがどんな商品についているのか知っていますか？

4 — 3 — 2 — 1
よく知っている いくつかは知っています あまり知らない 全然知らない

☆ あなたができるボランティア活動を何か知っていますか？

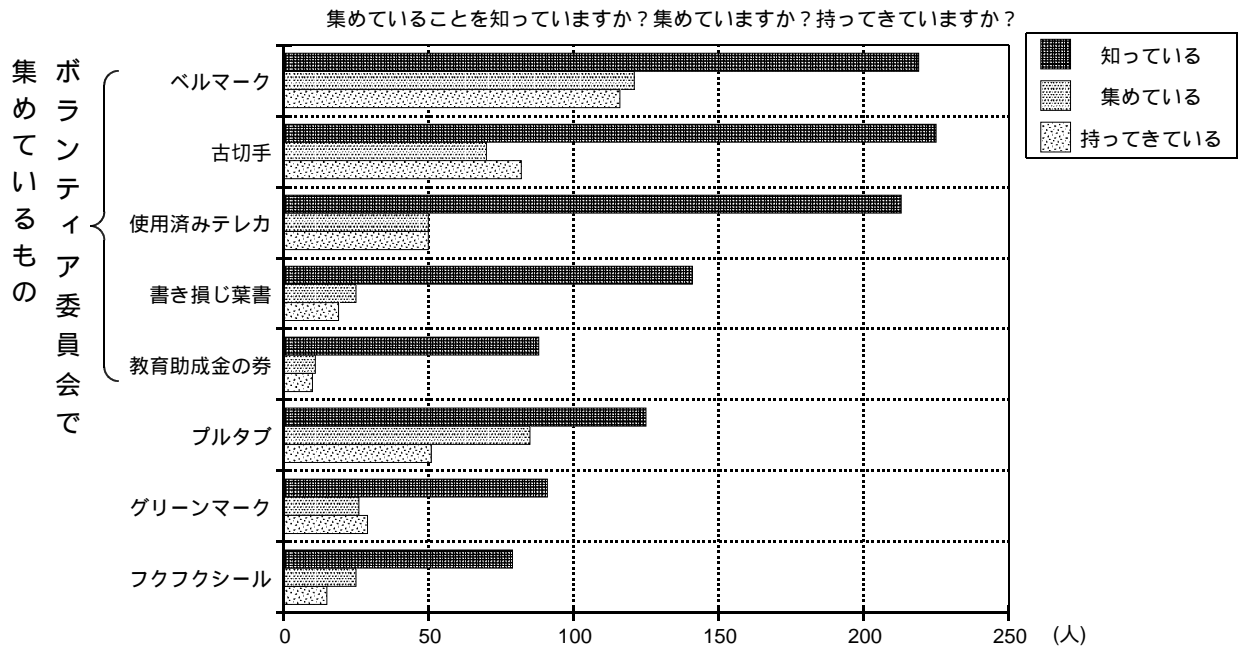
4 — 3 — 2 — 1
よく知っている いくつかは知っています あまり知らない 全然知らない

☆ あなたにできるボランティア活動があればしてみたいですか？

Yes · No · わからない

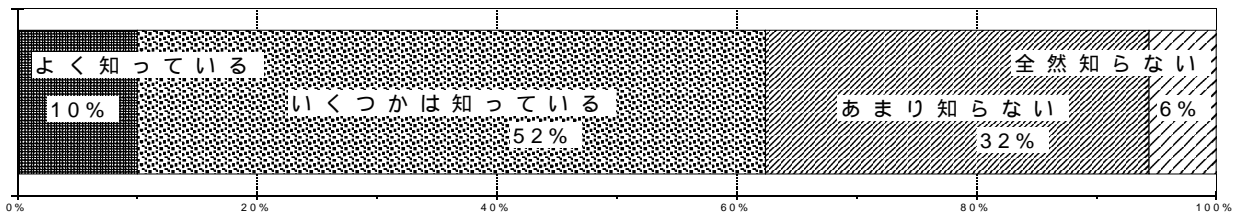
ご協力ありがとうございました!!

<資料2 収集物の認知者数と協力者数>

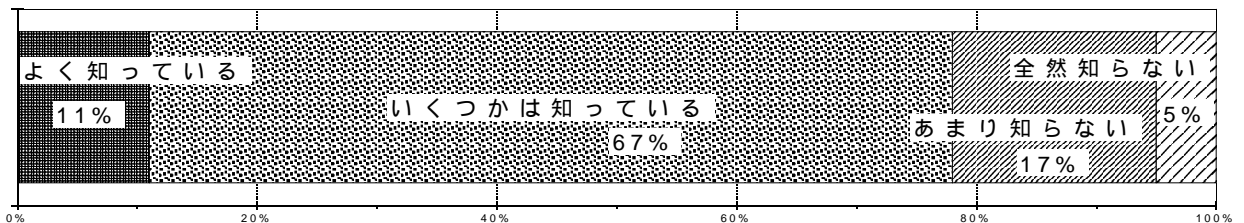


<資料3 意識調査結果>

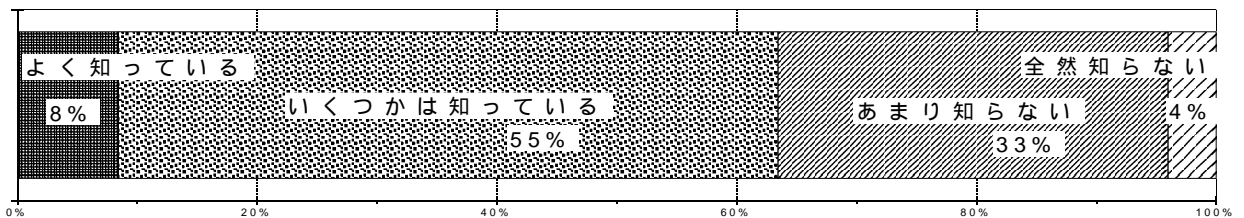
ボランティア委員会で集めたものが、どのように役に立つか知っていますか？



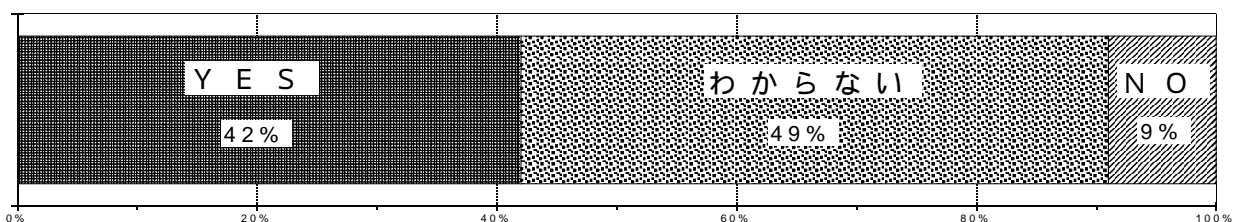
ベルマークがどんな商品についているのか知っていますか？



あなたにできるボランティア活動を何か知っていますか？



あなたにできるボランティア活動があればしてみたいですか？



(4) よみとる

ア 資料2 収集物の認知者数と協力者数 より

教育助成金の券と書き損じの葉書は、集めていることを知らない人が多い。集めていることは知っていても、実際に集めている人はその半分以下である。プルタブやグリーンマークなど、他の団体が集めているものは混同しやすい。家庭で集めている人の多くが、収集に協力している。

イ 資料3 意識調査結果 より

集めたものがどのように活かされているかは、ある程度理解されているように思えるが、集めていることを知らない物については役立ち方も十分には理解されていないのではないかと。

ベルマークのついた商品についてはよく知られてきているが、切り取って集めておくことができるよう意識を高める必要がある。

自分たちで使い方を決めることのできるベルマーク預金については、特に話し合い活動を充実させ生徒全員が理解することで、ベルマークを集める意識を高める必要がある。

自分にできる身近なボランティアがあることは知っているが、実践するとなると行動しにくい生徒が多いように思われる。

(5) いかす

アンケート結果をもとにどんな展示物を作成するかを話し合い、8学級から2名ずつの16名の委員で下記のように分担して展示物を作成した。

収集物の認知者、協力者の割合のグラフ 3年女子(3名) <資料4>

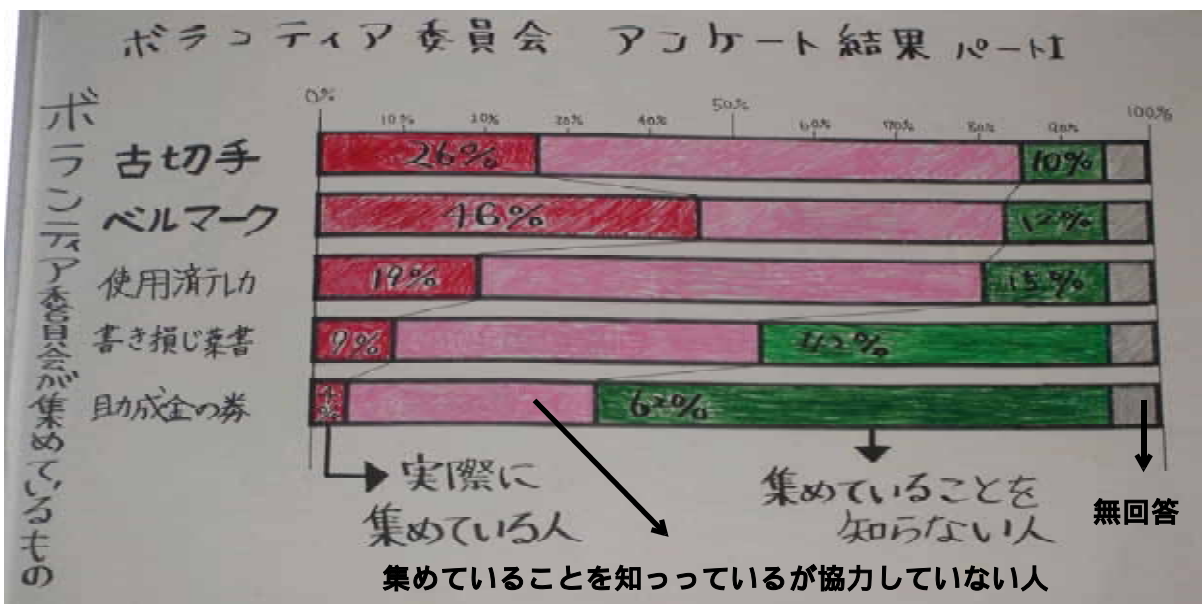
意識調査結果のグラフ 3年男子(3名) <資料5>

認知者の少なかった物呼びかける展示物 2年男子(3名) <資料6>

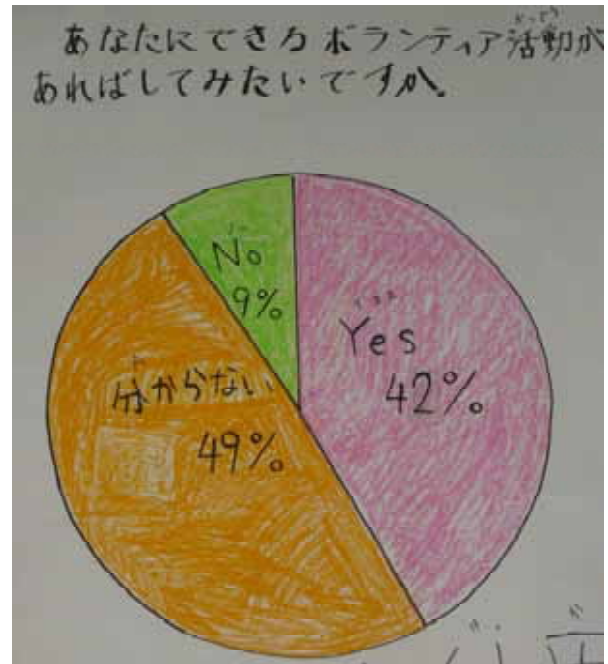
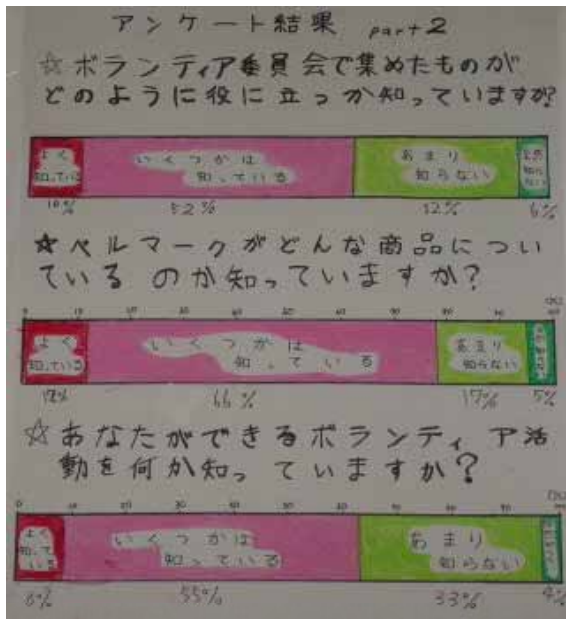
身近にできるボランティアを呼びかける展示物 2年女子(3名) <資料7>

ベルマークを全員の生徒が1年間集めたとしたら何点になるか試算し、ベルマークを集める呼びかけをする展示物 1年(4名)

<資料4 収集物の認知者、協力者の割合 グラフ 3年女子作成>



<資料5 意識調査結果 グラフ3年男子作成>



<資料6 認知者の少なかった物を呼びかける展示物 2年男子>

書き損じの葉書を集めて

- 書きまちかえて出せなくなった葉書ならOKです。
- 書くと思っ余った古い年賀状や暑中見舞の葉書はおまかせ。
- 1枚につき手数料5円で新しい葉書に生まれかわります。
- つまり1枚50円のおさそい葉書が45円になるのです。

ボランティア委員会で

教育助成金の券を集めています。

- 助成金の券は「くくくく」シールの台紙についています。
- 白紙にシールをはって500円として使うときに、お店の人に申し出てはんこを押してもらってください。
- なんと! 1枚20円です。

<資料7 身近にできるボランティアを呼びかける展示物 2年女子作成>

ちゅぽら

◎「ちゅぽら」ってなにぞ?

★ちゅぽらとは、「ちゅ」と「ぽら」のことです。

ちゅぽら人の第一歩

- 生活のむだをなくそう!!

- おひざりむせりが身近なエコ活動です!
- 使えない部品の再利用
- パソコンやプリンタが壊れた時、必要以上の力を使わない
- 水漏れや火災の危険がないにせよ、ゴミを減らす
- 再利用できるものと、そうでないものを分けをすることが大切です。

ポラ電器店の買客さんとの協力は、環境を良くする「ちゅぽら」になります。

★実際にちゅぽらをしてみよう!

②. あなたの生活の中

昔頃の生活の中にこんなちゅぽらをしてみてはどうですか?

ちゅぽら ちゅぽら ちゅぽら

「ちゅぽら」は難しいのはありません。Let's ちゅぽら!

<資料8 ボランティア通信>



文化祭終了後、12月にはアンケートの結果をまとめた「ボランティア通信」を発行した。文化祭で一度示した結果であるので、特に訴えたい内容、グラフに絞って作成した。また、1月には収集物の役立ち方を伝える通信を発行した。 <資料8>

「ボランティア通信」は内容を相談するのみで、紙面作成はほぼ全て委員長にまかせているが、ちょうど2学期末の役員交代の時期をはさみ、12月は3年の委員長が、1月は2年の新委員長が担当した。

5 成果と課題

(1) 成果

「ボランティア袋による収集活動に協力してもらう人がなぜ少ないのだろう。」という課題に、委員会では問題点が明らかになるように、また調査対象者が答えやすいようにと工夫してアンケート用紙を作成することができた。

アンケートの集計作業をする生徒の様子は、「しんどい。大変。」と言いながらも調査のおもしろさを感じているようであった。

集計結果の中から注目すべきデータだけを取り出し、自分たちで工夫したグラフを作成するなど、積極的な活動を引き出すことができた。

集計表を見て、「これじゃ、何のことが分らん。」とぼやいていた委員もいたが、他の委員と協力してグラフを作成すると、グラフからはいろいろなことが考察でき、グラフ化して示すことのよさを実感することができた。

展示用のグラフ作成にあたっては、委員会が収集している物に項目を絞ったり、実際に集めている人と集めていることを知らない人の2つの質問を一つのグラフにまとめたりして、分かりやすく伝える工夫ができた。

文化祭の展示による生徒、保護者の反応はすぐには分からないが、展示物の作成を通し

ボランティア委員は収集活動の目的をよく理解でき、学級での呼びかけも意欲的にできるようになってきた。

新ボランティア委員長、3学期のボランティア委員を希望する生徒が多く、委員会活動が周りの生徒から見ても魅力的なものになったことを感じた。

(2) 課題

実際にグラフをつくらせてみると、統計に関する基本的な知識や技能が不足している生徒が多いことに驚かされた。特に、円グラフを作成するために中心角を求める計算や、帯グラフを作成するための長さを求める計算は、すぐに理解することが難しい生徒がいた。今後、統計的手法を用いて表現したり、よみとったりする機会をいろいろな場面で設定する必要性を感じた。

広報活動の成果を確認するために、これからも継続的なアンケート調査が必要である。学年ごとの意識の変容や、意識と実際の協力数のずれなど、生徒の方からもこれから調査したい項目が挙げられている。今後も積極的に統計的探求を活動に取り入れていきたい。